

平成 29 年度3学期始業式講話(放送)

夢

校長 岩田 学

あけましておめでとう。

新年にあたり今年の目標を誓い、心新たに動き始めたばかりかと思えます。篠高生の一人ひとりにとって、夢が膨らむ一年になりますように祈念しています。

私はバレーボール協会の仕事で、全日本高校バレーボール選手権(春の高校バレー)が開催された東京体育館に行って来ました。すでに報道で知っている人もいるでしょうが、昨日行われた決勝戦で、鎮西高校(熊本)が洛南高校(京都)を下して見事に優勝しました。

実は、鎮西高校は2016年4月に熊本大地震に見舞われ、校舎はもちろん、体育館もほぼ全壊の被害にあいました。その後3ヶ月は震災の後片づけに追われ、練習の再開はようやく夏休みになってからでした。近隣の大学の体育館を借り、県外の強豪校との練習試合を増やして、実践中心に切り替えて鍛えてきました。

「地震の時は、窓から逃げた。毎日、余震の度にとても怖かった。」と主将の鎌田選手。続けて、「自分自身の夢と、たくさんの人の支えのお陰でやっと練習できるようになった。今日は、このコートでその思いを存分に発揮することができた。」と胸を張った。最後には、「震災で練習が短期集中型になった。今年の夏に新しい体育館ができて、そのことの良さを忘れないようにしてもらいたい。」と後輩たちにエールを送って、インタビューを締めくくりました。

「(大地震の)ピンチをチャンスに変えたかった。」と語る畑野監督の指導は厳しかったようですが、正面から真面目に受け止める鎌田ら3年生と、自分のペースを守るタイプの1年生がチームの中心となって全国大会に臨みました。困難を乗り越えようとする夢への道筋が、いくつもまとまった日本一だったと感じました。観衆の心を動かすプレーは天晴でした。

さて、私たちは、どこにあっても、どのような環境に身を置いても、その時々「今」を夢中に一心に生きることが夢を育むことになります。ここ篠ノ井高校でも、学習や様々な活動に夢中になって過ごしている生徒は、きっと素晴らしい夢を育んでいることと思います。高校時代に、自分を忘れるほど何かに専念し夢中になれる時間が持てたとしたら、それ以上幸福なことはないでしょう。そして、次のステージに進んだ未来にも、その場その場で、その人は時々の夢をしっかり育んで行くのだと思います。

人間には、生き詰まるということは絶対にない 行き詰るというのは、自分が「行き詰った」と思うだけのことである

経営の神様といわれた松下電器(現 Panasonic)の創業者松下幸之助の言葉です。とても強い気概の感じられる言葉で、なかなかこうは行かないですが、心に留めておきたい言葉です。

特に3年生諸君は、まずはセンター試験を全力でやり切り、その先に繋げて欲しい。心から応援しています。

そして、全校生徒の、夢中になる高校生活と、夢に近づく人生を願っています。